

## 66 東京法学院演説討論会

〔法学新報〕第五七号 明治二十八年十二月二十三日

## ○東京法学院演説討論会

本月七日午后一時より同院大講義室に於て開会せり当日は久しぶりの演説会なりしを以て出席者意外に多く定刻に至り講師院友及生徒の会合するもの無慮千余名に達し遅れ走せの者は会場に入るを得ずして場外の窓より立聴をするか如き盛会にて第一席に卜部喜太郎氏は手形の大弊書を論すと云ふ演題を掲げ商法の規定中商人をして無制限に約束手形を發行せしめ各銀行か無制限に手形の割引を為すより生し来る大弊書を論し其論鋒の鋭利なる世の所謂偽紳商をして之を聴かしめは其心担を寒からしむるの価値充分第二席の演壇に昇りたるは花井卓藏氏なり氏は推測征服論と題し其著非常国際法論に於て未だ発表せざりし国際法上征服の原理を論断し其説の愈出て、愈々新なる満場の傍聴者をして覚へす拍手喝采せしめたり第三席岡野敬次郎氏の数年間独逸に留学して畜へ帰りたる学問上の講談は学者学生の参考に供すへきもの頗る多く第四席岡村輝彦氏は有名なる千島艦事件の要領を軽快の口調を以て説明したるは上出来なりし岡村氏の講談終りたるは点灯頃なりしを以て直に討論に移り岡松学

士を議長とし「甲男あり乙女と結婚の約束を為せり然るに甲男は其后に至り丙女を娶りたり其場合に乙女は甲男に対し違約を原因として損害賠償を請求することを得るや」の論題に就て甲論乙駁午后八時頃に至りたるも議論の尽くへき見込なかりしを以て議決を為さずして散会したり

因云法学院の講師評議員諸氏は同日法学院に於て岡野岡村両氏のために無事帰朝の祝宴を開きたり